

当院外来患者におけるリビングウィル～終末期医療の取り組み～

医療法人衆和会 長崎腎病院

○宮本理恵, 羽田鮎子, 丸山祐子, 原田孝司, 船越 哲

【背景】

2007年に厚生労働省の「終末期ガイドライン」原案が発表された。当院でも事前指示書（リビングウィル）の運用を始め、2010年より病状説明時にリビングウィルを提示している。

【目的・方法】

リビングウィルの取得率・未取得率とその内容を調査し、外来患者がどのような終末期を迎えたいかを分析する。

【結果】

外来透析患者数 261 名中 205 名に病状説明を行い、そのうちリビングウィルの取得率は 38% で、患者本人の署名は 89.4% であった。継続を希望する治療の中で「血液透析の継続」は 52% であった。取得者の年代別で 80 歳以上が 1/3 を占めていた。また、仕事をしている患者の未取得率は 54.0% であった。

【考察】

外来透析患者におけるリビングウィルの取得率は 38% にとどまり、特に仕事をしている患者に対し説明法に検討が必要と思われた。また、5 割以上の患者が延命措置のうち血液透析を希望したことにより、患者の透析に対する思い入れの深さが推測された